

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270201926
法人名	社会福祉法人アソカ仁寿会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 あそかのもり
所在地	佐世保市松瀬町1 1 7 1 番地 1
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年12月19日

【情報提供票より】 (平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年 12月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	27 人
常勤	16人
非常勤	人
常勤換算	16人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2~4	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (12月19日現在)

利用者人数	27 名	男性	4 名	女性	23
要介護1	0 名	要介護2	9 名		
要介護3	8 名	要介護4	6 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	79 歳	最高	98

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京町内科病院 牟田内科 東歯科 品川眼科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは大自然に囲まれており四季を視覚聴覚から感じられ、室内もゆったりとし心豊かに過ごせるホームである。法人内の幼稚園・デイサービスなどの利用者との交流が頻繁で、ホームの立地からは感じられないほどの地域密着型の介護を実践している。また消防訓練など法人全体で行われるため毎月訓練計画がしっかりとなされ安心である。内外研修に関しても充実しており、職員も積極的に研修を受け向上心にあふれている。理念の「笑顔・礼儀」は職員全体に浸透しており、それぞれの職員が自らの介護目標をもち実践されている。利用者も笑顔にあふれ、各々がマイペースに趣味の書道や手芸を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目は先ず管理者とリーダーで話し、その後職員と共に行われている。改善項目の介護計画は改善シートが作成されている。前回の改善項目の重度化以外は対策をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価の意図を理解している。自己評価は各ユニットでフロア会議にて話し合いながら、先ずは各自で記入してリーダーが作成している。又新人の目から見た取り組みもされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、メンバーは民生委員、老人会会長、市担当者、利用者、各ユニットの家族代表、副理事長、各ユニットリーダー、管理者である。外部評価報告やホームの行事紹介、町内の方との意見交換などしている。運営推進会議の資料も作成している。又季節に応じて介護指導をするなど工夫している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情受付に関する項目が記載されており、事業所及び第三者委員、行政機関の連絡先が明確に表記され家族にも説明されている。職員は月一度の面会時や、年一回のお茶会の時に要望を聞くようにしている。要望がある場合は、聞いたことを申し送りして、職員全員で共有化し改善に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公民館長や地域老人会会長の働きで、大野地区の祭りに出かけたり、小学生・中学生・高校生の職場体験の訪問、又ホームの側の畑で園児の芋掘り、地域ボランティアの大正琴演奏などの交流がある。年に一度、小規模多機能事業所を含め夏祭りを開催している。町内の行事の一環として介護教室を開催して地域とのつながりに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念である「笑顔と礼儀」「愛情と真心」は職員全員に浸透している。法人内の小規模多機能事業所との交流を含め、職員自体が地域とのつながりを大事にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時には理念の唱和を行っており、「あそか」全体として意義を理解している。又フロア会議にてその旨話し合いがされるなど職員間で理念を共有化している。新人研修では理事長からの訓話として礼儀、接遇をはじめ理念に基づいた教育が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館長や地域老人会会長の働きで、大野地区の祭りに出かけたり、小学生・中学生・高校生の職場体験の訪問、又ホームの側の畑で園児の芋掘り、地域ボランティアの大正琴演奏などの交流ある。年に一度、小規模多機能事業所を含め夏祭りを開催している。町内の行事の一環として介護教室を開催して地域とのつながりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価の意図を理解している。自己評価は各ユニットでフロア会議にて話し合いながら、先ずは各自で記入してリーダーが作成している。又新人の目から見た取り組みもされている。改善項目は先ず管理者とリーダーで話し、その後職員と共に行われている。改善項目の介護計画は改善シートが作成されている。前回の改善項目については重度化以外は対策をしている。		

認知症対応型共同生活介護事業所あそかのもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回開催されており、メンバーは民生委員、老人会会長、市担当者、利用者、各ユニットの家族代表、副理事長、各ユニットリーダー、管理者である。外部評価報告やホームの行事紹介、町内の方との意見交換などしている。議事録も作成している。又季節に応じて介護指導をするなど工夫している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議などを通じて、市担当者との交流に努めている。法人内の伝達事項を含め、研修情報、書類関係などの問いかけを詳細にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一度の面会時に利用者の近況報告がされている。その際領収書や控え、金銭管理の報告、出納帳の確認印などの書類などの報告がされている。面会ノートには行事の写真などを貼っている。遠方の家族には月一度の郵送にて報告している。又利用者の思いがあれば電話をかけたり、家族からの電話があるなど対応がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受けに関する項目が記載されており、事業所及び第三者委員、行政機関の連絡先が明確に表記され家族にも説明されている。職員は月一度の面会時や、年一回のお茶会の時に要望を聞くようにしている。要望がある場合は、聞いたことを申し送りして、職員全員で共有し改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人による異動はあるが、現在はほとんどない。異動がある場合は、利用者との信頼関係が築かれるまでは付き添うようにしている。又家族への報告もしている。通常より小規模多機能、特別老人ホームなどのスタッフとの交流があり利用者との関係作りがなされ、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

認知症対応型共同生活介護事業所あそかのもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間の研修計画はないが、消防の年間計画の中に組み込んでいる。参加したい研修があれば職員は希望に応じて参加できる。研修後は発表の場を設けるなどして共有化している。月一度は法人内で研修を実施し職員の向上に努めている。新人研修においては、理念から、介護の基本、介護保険など、リーダー指導による実践をふまえながら職員の方のレベルアップを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に参加したり、研修、勉強会、講習会などで交流する場があり参加者同士の交流がもたれている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がショートステイ利用時に、家族が見学したり、話をしている。ほとんどの利用者が法人内のサービスを利用しているため、馴染みやいい環境である。慣れるまでの一か月は、話を聞きながらその場面に合わせた個人の様子や情報を記録している。話しながら安心感を与え、生活状況の見守りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の状況の変化から判断し話を聞いたり、外出願望の方の場合は一緒に出かけて散歩をしたりして気分転換を図っている。利用者のありがとうの言葉、昔話をすることで職員も癒されている。利用者の得意分野、生活歴を聞くことで職員が利用者より教えてもらっている。		

認知症対応型共同生活介護事業所あそかのもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の変化を常に気づくよう心がけている。利用者が起きる時間、食事をする時間などしたい時にしてもらえるよう配慮している。いつもと違う利用者の行動をみて対応し、職員へ申し送りをしている。トイレ対応は、利用者の排泄リズムと状況を判断して介助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族の意見を聞き作成される。とくに話のできる利用者は、直接要望を聞き、家族の場合は、来訪の際聞いて計画を立てている。ケアプランの作成は、生活歴などの情報を得たあと1ヶ月ほど様子をみて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	作成された介護計画は、3ヶ月を目安にモニタリングを行いサービス担当者会議を行っている。またモニタリング後の追加項目があった場合は即介護計画に追記されている。利用者に緊急な状況の変化があった場合は、主治医の相談を受けたりその都度対処している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は利用者の希望する場所へ買い物へ共に行ったり、家族との墓まいり、帰宅などの外出支援を行っている。また利用者が入院されたときはお見舞いなど支援している。		

認知症対応型共同生活介護事業所あそかのもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族はかかりつけ医受診は継続できる。基本的には、家族に介助をお願いしているが、受診介助・つきそいなど送迎の支援もしている。また協力医への受診時は家族へ連絡をし、要望があれば他医療機関への受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所の際家族に重度化の場合の話をしている。利用者の身体機能の低下が見受けられた時点でその都度家族へ状況の説明をし話し合いを行っており、内容は個人ケース記録へ記載しているが一目では記載場所が分かりづらい。また指針・同意書の作成まではいたっていない。	○	ホームの終末期に向けた指針・同意書を作成されることを期待する。また個人ケース記録へ話し合いの内容を一目で分かる工夫を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員とは誓約書を交わしている。また個人情報に関する同意書は家族と交わされている。個人情報に関する書類や薬類などは目に届かない所に鍵をかけて管理者が保管している。又個人情報の取り扱いについては守秘義務の徹底がされている。利用者への声かけのトーンや、トイレの誘導時はまわりに気づかれないように注意を払うなど、ていねいな言葉かけに心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まか決まっているが、本人の希望やその日の体調などに合わせて支援している。日々の体操やレクリエーションなどの行事は利用者の要望で行われており、毎日希望を募って行われている。リビングは散歩ができる広さがあり、自由に歩行訓練ができるなど希望に沿った支援をしている。		

認知症対応型共同生活介護事業所あそかのもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会があり、利用者を対象に嗜好に関する写真入りアンケートを行い、好みを把握している。食事は利用者の手作りがあったり、配膳、後かたづけなど利用者が出来ることは職員と一緒にやっている。食事の工夫として、嫌いな物は違うものにしたたり、形が好まない場合はミンチにするなど食事を楽しむ工夫がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、各ユニットごとに曜日が決められている。ユニットで曜日が違うため希望に合わせて入浴ができる体制ができています。入浴拒否の利用者の場合は、入浴日をずらすようにしている。お湯は利用者が入る前に職員が必ず手をいれ温度の確認をしている。失禁の場合シャワー、入浴など状況に合わせて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望を把握し、利用者個々の楽しみを活かしている。洗濯物干し、さしこ、配膳、盛り付け、利用者希望のレクリエーション表作成、歌、頭の体操としての連想ゲーム、又気晴らしとしてのドライブなど支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて買い物に出かけたりドライブに出かけている。ホーム周辺の庭園が広く散歩できるため散歩を楽しんでいる。食材の買い物に行く際利用者も同行することもある。また外食の支援をし気分転換を図っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない支援がされている。徘徊する方の場合は職員皆で見守り、徘徊が起きたら後ろから職員がついてまわっている。各ユニットで職員同士がカバーしながら自由な生活ができる支援をしている。		

認知症対応型共同生活介護事業所あそかのもり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は月1回実施しており記録している。また敷地内の他施設合同の訓練にも年2回参加している。昨年は消防団の協力で避難訓練を行い、避難経路は合同で救出できる訓練をしており緊急時連絡表やマニュアルがある。		
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に合わせ食事量や残量、又一日の水分量がわかるようにケース記録表に記入している。夜間はポットに水分を準備し居室に置いている。献立表は法人内栄養士作成を参考にしている。糖尿病や減塩が必要な方は個別に作成するなど対応している。又便の回数や量などを記録して状態にあわせた支援をしている。		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い窓からは自然の景色が眺められ、共有空間は広々として明るく静かな穏やかさが感じられホーム全体清潔で居心地のいい空間となっている。リビングは食卓テーブル、カウンター、ソファ、掘りごたつの和室、又対面キッチンのため職員も食事を作りながら見守ることが出来る。リビングには利用者作成の書道が貼られていたり、季節感を取り入れた装飾などで楽しめる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は広く明るく、外の景色が感じられる造りにしてあり、家族の写真や使いなれた小物、ぬいぐるみなど親しんだものがあり、利用者の状況によっては、畳やベッドなどを置いている。各ユニット別のカラーを設けていて、利用者個々に合わせた居心地よく過ごせるよう温度調節など工夫をしている。		

※  は、重点項目。